回答書

本件の質問に対する回答をいたしますので、確認をお願いします。

工事名 又は件名	玉幡公園総合屋内プール複合型運動施設整備工事	
No.	質問	回答
	(構造)	
1	S-001 防水押えｺﾝｸﾘｰﾄについて、 強度･ｽﾗﾝﾌﾟは､Fc18N/mm2 SL15cm と考えてよろしいですか。	ご質問のとおり、Fc18N/mm2、スランプ 15cm とします。
	(外部仕上)	
2	AZ-120･405 ﾃﾗｽ FY2/FX5～6 通り 隔て壁の仕上げについて、 断面図-1 では 1FL～+1600 のﾗｲﾝまで白抜きとなっていますが､詳細図-5 -3 に準じ、1FL まで全て同じﾀｲﾙと考えてよろしいですか。 異なる場合は､仕上げ詳細をご指示下さい。	ご質問のとおり、詳細図-5-3 に準じ、1FL まで全て同じタイルとします。
3	AZ-104･112･S-009 北側通路部について、 GX1～EXP.J までの躯体･屋根ﾚﾍﾞﾙ･防水･ﾊﾟﾗﾍﾟｯﾄ有無･雨水排水等 詳細が不明です。構造図･屋根平面詳細･通路部断面詳細をご指示下さい。 	北側通路部（GX1～EXP.J）の躯体は構造図（S-009 他）によります。屋根形状は AR-530 によるものとし、防水はアスファルト防水（保護工法、断熱材なし、押えコンクリート t60）とします（No.12 の回答のとおりアスファルト防水とし、No.6 の押えコンクリート t80 及び断熱材の回答は、当該部分には適用しません）。パラペットはスラブ（t150）上に RC 立上り H150 を設け、天端は EXP.J（屋根）にて覆う納まりとします。雨水はルーフドレン（φ100）により AZ-104 に示す竪樋 φ100 へ排水するものとし、ドレンの形式及び立上り部の詳細な納まりは、施工図にて監督員と協議してください。
4	AZ-123 屋外階段について、 下記をご指示下さい。 1） 排水溝(段差 50)と図示がありますが、防水ﾓﾙﾀﾙ金鏝 W100xH50 階段独立壁範囲と考えてよろしいですか。 2） 段裏･上裏仕上は浸透性吸水防止材と考えてよろしいですか。	1） ご質問のとおり、防水モルタル金ごて W100×H50、階段独立壁の範囲とします。 2） ご質問のとおり、段裏・上裏は浸透性吸水防止材塗布とします。
	(内部仕上)	
5	AZ-400 浴室腰壁見切縁について､仕上詳細図 WU-	不燃バスパネル下の見切縁はアルミ製既製品とします。シール部分の表示は見切

	05 の不燃ﾊﾞｽﾊﾟﾈﾙ下にｱﾙﾐ見切の図示がありますが､ｼｰﾙ部分にも見切縁の様な図示があります｡形状･寸法･仕様等をご指示下さい。	縁ではなく、変成シリコン系シーリング（10×10）です。
6	AZ-121･400 浴室壁不燃ﾊﾞｽﾊﾟﾈﾙについて、 下記をご指示下さい。 1）断面図-2 FY2 通りの梁型納まりについて､下端にﾊﾞｽﾊﾟﾈﾙの図示がありませんが、壁仕上と同じﾊﾞｽﾊﾟﾈﾙと考えてよろしいですか。 2）上記梁及び壁出隅について､ｱﾙﾐ既製品と考えてよろしいですか。	1）ご質問のとおり、梁型下端も壁仕上と同じ不燃バスパネルとします。 2）ご質問のとおり、アルミ製既製品とします。
7	AZ-403･404 浴室 洗い場他天端 花崗岩-壁 ﾀｲﾙ取合納まりについて、 ｼｰﾘﾝｸﾞの図示がありません。不要と考えてよろしいですか。	花崗岩と壁タイルの取合いは、変成シリコン系シーリング（10×10）を施工してください。
8	AZ-102･400･500 ｻｳﾅのｱｽﾌｧﾙﾄ防水立上りについて、 FL+150 までと考えてよろしいですか。	ご質問のとおり、FL+150 までとします。
9	AZ-400･404 風除室 防水立上げについて、 下記をご指示下さい。 1）詳細図-4/6 ではｳﾚﾀﾝ塗膜防水立上げ H150 とありますが､特記仕様書 ｳﾚﾀﾝ塗膜防水の施工か所に風除室の記載はなく､また仕上詳細図/H-04 ではｱｽﾌｧﾙﾄ防水 H150 立上げの図示があり､くい違います｡仕上詳細図を正と考えてよろしいですか。 2）下地について､仕上詳細図/H-04 では耐水合板 t12 の上ｱｽﾌｧﾙﾄ防水ですが､立上りｺﾝｸﾘｰﾄ H150 の上ｱｽﾌｧﾙﾄ防水に読替えてよろしいですか。 3）上記質疑 1)でｳﾚﾀﾝ塗膜防水が正の場合､風除室の床防水･立上りは全てｳﾚﾀﾝ塗膜防水と考えてよろしいですか。	1）仕上詳細図を正とし、アスファルト防水（改質アスファルトシート防水）H150 立上げとします。 2）ご質問のとおり、立上りコンクリート H150 の上アスファルト防水に読み替えてください（LGS 壁の部分も同様とします)。 3）上記 1）のとおりです。
10	AZ-102･400･151･152 風除室 壁不燃化粧板 t6 の下地について、仕上表では耐水合板 t12/GL ﾎﾞﾝﾄﾞですが、仕上詳細図/W-03 では不燃化粧板/GL 工法とくい違います｡又､吉野石膏ｶﾀﾛｸﾞより、湿気の激しい場所･結露の予想される部屋及び合板等の石膏ﾎﾞｰﾄﾞ以外のﾎﾞｰﾄﾞ類への使用は避けるとあります｡耐水合板 t12 UL 工法下地に読替えてよろしいですか。	ご質問のとおり、耐水合板 t12 UL 工法下地に読み替えてください。不燃化粧板はメーカー指定の接着剤にて張り付けるものとし、GL ボンドは使用しないものとします。
11	AZ-102･202 風除室(男) 天井高について、 仕上表では CH2600 とありますが､展開図では CH2700 とあり､くい違います｡風除室(女)に倣い､CH2600 と考えてよろしいですか。	ご質問のとおり、風除室（女）に倣い CH2600 とします。
12	AZ-102･121 脱衣室床 防滑性ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄの厚みについ	仕上表を正とし、t3.5 とします。

	て、 仕上表では t3.5 ですが、断面図-2 では t2.5 とくい違います。仕上表を正と考えてよろしいですか。 異なる場合、t2.5 のﾒｰｶｰ品番をご指示下さい。	
13	AZ-400 脱衣室他 腰壁 不燃化粧板上部見切縁 t12x25 について、 塩ﾋﾞ見切縁と考えてよろしいですか。	ご質問のとおり、塩ビ製見切縁とします。
14	AZ-102・400 脱衣室他 天井 化粧けい酸ｶﾙｼｳﾑ板張り t6.0 について、 目透し張りと考えてよろしいですか。	ご質問のとおり、目透し張りとします。
15	AZ-404 ﾗｲﾆﾝｸﾞ壁 ﾒﾗﾐﾝ化粧板 t6 について、 ﾒｰｶｰ品番をご指示下さい。	メーカー・品番の指定はありません。色柄は見本により監督員と協議してください。
16	AZ-102・140 WC(女)・(男) 天井下地について、 仕上表ではせっこうﾎﾞｰﾄﾞ t9.5 とありますが、天井伏図では C-02(下地耐水せっこうﾎﾞｰﾄﾞ t9.5)の指示があり、くい違います。水廻りのため天井伏図を正と考えてよろしいですか。	ご質問のとおり、天井伏図を正とし、耐水せっこうボード t9.5 とします。
17	AZ-102・104 収納(FX1-2/FY2 通り) 仕上げについて、 仕上表に記載がなく、詳細が不明です。通路休憩ｽﾍﾟｰｽに倣い、下記のように考えてよろしいですか。 床:ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ張り+下地ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ材塗り 幅木:ﾋﾞﾆﾙ幅木 H40 壁:EP 塗り 天井:岩綿吸音板張り 廻縁:塩ﾋﾞ	ご質問のとおりとします。
18	AZ-102・104 PS 仕上げについて、 仕上表に記載がなく、詳細が不明です。下記のように考えてよろしいですか。 床:ｺﾝｸﾘｰﾄ直均し仕上げ(素地仕上げ) 幅木・廻縁:無し 壁:打放し補修(素地仕上げ)又は LGS 表し 天井: 直天	ご質問のとおりとします。
19	AZ-400 機械室壁 ｸﾞﾗｽｳｰﾙﾎﾞｰﾄﾞ張の下端納まりについて、 仕上詳細図(H-07)に図示ありませんが、塩ﾋﾞ見切縁が必要と考えてよろしいですか。	ご質問のとおり、塩ビ製見切縁を設けてください。
20	AZ-004・102・104 合成樹脂塗床(ｴﾎﾟｷｼ樹脂系)について、 特記仕様書に適用印がありますが、仕上表に該当する部屋がありません。無しと考え	ご質問のとおり、無しとします。

	てよろしいですか。	
21	AZ-005・102 壁紙について、 特記仕様書に適用印がありますが、仕上表に該当する部屋がありません。無しと考えてよろしいですか。	ご質問のとおり、無しとします。
22	AAZ-401 陸屋根の設備基礎下・ﾊﾄ小屋下の断熱について、 詳細図に図示ありませんが、建築工事標準詳細図に倣い、吹付け硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ t30(補強巾 W300)を施すと考えてよろしいですか。	ご質問のとおり、建築工事標準詳細図に倣い、吹付け硬質ウレタンフォーム t30（補強巾 W300）を施してください。
23	AZ-107・S-009 配管ﾋﾟｯﾄ FX1～2/FY1～2 通り釜場のｻｲｽﾞについて、 ﾋﾟｯﾄ図は W1200xD650 ですが、1 階伏図では W900xD650 とくい違います。ﾋﾟｯﾄ図の W1200xD650 を正と考えてよろしいですか。	ご質問のとおり、ピット図の W1200×D650 を正とします。
24	AZ-005・104・401 ﾋﾟｯﾄの床点検口について、 下記をご指示下さい。 1) 床点検口について、特記仕様書 20.16 はｱﾙﾐ製ですが、設計書 金属工事に計上されている床下点検口は SUS 製とくい違います。特記仕様書のｱﾙﾐ製を正と考えてよろしいですか。 2) 床点検口のﾒｰｶｰ・品番をご指示下さい。	1) 設計書のとおり、SUS 製を正とします。 2) メーカー・品番の指定はありません。SUS 製 600×600 とし、監督員の承諾を受けてください。
25	AZ-107 配管ﾋﾟｯﾄの通水管・通気管について、 図示がありませんが、必要な場合、設置位置・径・管の仕様をご指示下さい。	1) 通水管：ピット内の水を釜場（FX1～2/FY2～3 通り）へ集水するため、ピットを区画する地中梁（FX2～FX5 通り及び FY2 通り）に、管底をピット床面に合わせて通水管（硬質塩化ビニル管 VPφ100）を設けてください。設置数は 9 か所程度（FY1～2 間・FY2～3 間の各 FX2～FX5 通り、及び FY2 通りの FX1～2 間）とし、位置は柱際（柱面から梁せい程度の範囲）を避け、施工図にて監督員と協議の上決定してください。 通水管の径は地中梁せいの 1/10 以下であるため、梁貫通部の補強筋は不要とします。 2) 通気管：各区画は人通口（600φ）により連通しているため、通気管は不要とします。
26	AZ-107 人通口について、 上下に手掛金物 SUS W400 が必要と考えてよろしいですか。	人通口の手掛金物は不要とします。なお、施工にあたり必要と判断される場合は、監督員と協議してください。
	(建具)	
27	AZ-004・131・302 ｱﾙﾐｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ 性能について、ｱﾙﾐ製建具に同じと考えてよろしいですか。	ご質問のとおり、アルミ製建具と同じ性能とします。

28	AZ-004･132･302･303 ACW-1･2 について、 下記をご指示下さい。 1) 外倒し窓部について､固定網戸を見込んでよろしいですか。 2) ｶﾞﾗｽについて､飛散防止ﾌｨﾙﾑを見込んでよろしいですか。 3) 上記飛散防止ﾌｨﾙﾑについて､ﾒｰｶｰ･品番をご指示下さい。	1）ご質問のとおり、固定網戸を見込んでください。 2）飛散防止フィルムは不要とします。ACW-1・2 の出入口部（片引きハンガー戸及び同戸に隣接する床面に接する FIX ガラス）は、室内側を合わせガラス 6.8（FL3＋中間膜＋FL3）とし、Low-E5（遮熱型）＋中空層＋合わせガラス 6.8 としてください（中空層厚は建具詳細図による)。熱割れの検討はメーカーによるものとします。 3）上記 2）のとおりです。
29	AZ-004･131･132 Low-E 複層ｶﾞﾗｽについて､ﾒｰｶｰ品番及び色ﾊﾞﾘｴｰｼｮﾝや日射熱取得率が不明です。AGC：ｻﾝﾊﾞﾗﾝｽ ﾆｭｰﾄﾗﾙｸﾘｱ同等(η 値 0.38)と考えてよろしいですか。 否の場合は､具体的なﾒｰｶｰ品番及び色ﾊﾞﾘｴｰｼｮﾝをご指示下さい。	ご質問のとおり、AGC：サンバランスニュートラルクリア同等（遮熱型）とします。これに伴い、ACW-1・2 のガラスは Low-E 膜を室外側ガラスとする構成とし、No.62（10 月 21 日付回答）のガラス構成のうち Low-E ガラスの位置は本回答によるものとします。なお、ACW-1・2 の出入口部のガラスは No.117 の回答のとおりとします。
	(外構)	
30	LZ-010･AZ-104 既存棟(休憩ｽﾍﾟｰｽ～廊下(1))の外周(犬走り)と増築棟周囲砕石敷との取合いに見切(縁石)と思われる二本線が記載されていますが､既存のままと考えてよろしいですか。 本工事に含む場合､仕様･詳細及び範囲･撤去の有無をご指示下さい。	既存のままとします（本工事に含みません)。ただし、増築棟の根切り・山留め等の施工に伴い、既存縁石・犬走りに破損・沈下・ずれが生じた場合は、既存同等品にて復旧してください。
	(外部仕上)追記	
31	GCW-8,7A,7B,7C,9,10,11 において、「アルミサッシ・ガスケット撤去」と表記がありますが、建具表にも反映されておらず、撤去後はどのような仕様になりますでしょうか？ （該当図：AR-508,511,512,513,515）	ご質問の「アルミサッシ・ガスケット撤去」の箇所（新設サッシの記号表記がない箇所）は、既存アルミサッシ及びガスケットを撤去後、周囲の既存ガラス面と同様のガラス面に戻すものとします。ガラスは、GCW-7A・7B・7C はフロートガラス FL8、その他は複層ガラス FL6＋A6＋FL6 とし、ガラス留ガスケット（EPDM、ガラス厚に応じたもの）及びガスケット受金物にて固定し、取合いはシーリング（SR-2）としてください。なお、記号表記のある箇所は建具表（GCW-A○）の新設サッシ、GCW-10 の増築工事接続改修箇所は AR-530 によります。詳細な納まりは既存ガラスカーテンウォールに合わせ、施工図にて監督員と協議してください。
32	GCW-9,10 において、「新規引違い窓」の表記（色付け）がありますが、建具表に反映されておりません。仕様のご指示をお願い致します。 （該当図：AR-515）	GCW-9・10 に新設引違い窓はありません。GCW-9 の着色部は新設排煙窓（既設改修済サッシ撤去後、建具表 GCW-A14)、GCW-10 の着色部は既設改修済サッシ撤去及び増築工事接続改修箇所（増築棟連絡通路との接続部、AR-530「S 改-1 回廊、温浴施設接続部詳細」による）です。新設引違い窓は、GCW-11・12 に示すもので、建具表によります。